

New York Report

July 2020

CONTENTS

* Project 1: Outdoor Dining

1. Outdoor Dining

Project Overview

感染のホットスポットといわれていたニューヨーク市も、ロックダウン解除の第二段階となる Phase 2 が 6 月 22 日よりスタート。3 月中旬から店内での飲食が禁止され、デリバリーかテイクアウトのみの営業を余儀なくされていたレストランは、やっと屋外に限って接客サービスを再開できることとなった。ガーデン席やテラスがあるレストランや、すでに店前歩道の使用許可が下りているレストランの営業が再開。Phase 2 開始に先駆け、ニューヨーク市長は、今回のパンデミックで大きな打撃をうけた飲食業の救済措置として、歩道や車道での営業許可申請を簡易化する対応をとり、6 月末まで 3,000 軒を超えるレストランの屋外営業を認めた。

屋外であっても、テーブル間は 6 フィート(1.8m メートル)のソーシャルディスタンスを保つことはマスト。6 フィートが難しい場合は、アクリル板などを使って客席を隔てる。また、店員全員はもちろんのこと、来店客もテーブルに着席するまでマスクで口元を覆うことが義務付けられている (1 つのテーブルの定員は 10 人まで)。歩道にテーブルを設置する場合、歩行者のために少なくとも 3 フィートはスペースをあけなければならない。また、車道を使用する場合は、バス停や信号、消化器からは決められた一定の距離を保つこと、花壇などを使用しテーブル席を囲ってバリアを設けることが義務付けられている。

コロナ禍後のこうした公共の場での感染防止の新しいルールは、ロックダウンの解除の段階が進むとともに増えていきそう。こここのところ良い気候が続くニューヨークでは、アウトドアの飲食が解禁になったことで街により活気が戻ってきている。予定では、7/6 から Phase 3 が開始され、店内での飲食も可能になる見通し。

Project Details

1. New York City
2. Restaurants

Location Map





マスクをした巨大ぬいぐるみでアウトドアダイニングをアピール



テーブルとテーブルの間にはアクリル板を立てて感染対策



車道がバーカウンターに



車道のテーブルは、自転車の通行を妨げないというルールがある



雨よけのテントを使用するレストランも多い。植栽を加えてデコレーション



車道の両脇にダイニングスペース